

# 「少数者と教育」研究会

## ■研究会について

「少数者と教育」研究会は、文字通り、少数者＝マイノリティの教育における問題について検討するために今年立ち上げた研究会です。

現在居るメンバーは、「障害」というマイノリティ性、他者との差異に着目し研究を進めようとしている人たちです。公共コースの、とくに立岩先生を指導教員とするメンバーで構成されています。

従来、「障害者と教育」の分野では「支援の在り方」や「制度の在り方」に注目した研究が多くなされてきました。その研究自体の意義は認めつつも、本研究会ではそのアプローチと異なる方針で研究を行っていきます。それは、「障害学生支援」の制度や場が自明視してきたこと、例えば「高等教育では障害者/健常者とを分けずに、共に学んでいくこと」「知的障害者が高等教育に進学することが困難」など、「社会的少数者が高等教育機関で学ぶ」というときの前提について問い返していきたいと思っています。

ですが、私たちが「少数者」と名付けたのは、「障害」とらわれない様々な少数者をその関心の対象に置いているがゆえです。同様の関心を持つ皆さん、とくに「障害」という問題以外に関心を持っている皆さんの参画を私たちは求めます。

## ■研究会の趣旨

今年度は——本研究会は、すくなくとも今後3年間は継続させるつもりです——社会的少数者の中でも、特に障害者が健常者と共に学ぶために必要な「情報保障」をテーマとしています。情報保障というのは、障害者と健常者の間にある情報格差をなくすための手段の一つで、聴覚障害者に対する手話通訳や要約筆記、視覚障害者に対する本の点訳や視覚情報の提供などがそれにあたります。知的障害者については、まだ十分に確立されていません。そのような情報保障が、どこでどのように構築され、提供されてきたのかについて、関東・関西を中心に調査しています。

そしてあくまでもおまけではありますが、先端研における互助的な役割も果たせたらと思います。

## ■研究会の内容

### \*シンポ開催(2回開催を予定)

…外部講師を招聘したシンポジウムを行い、少数者の教育における課題や問題点を議論します。

### \*定例会

…課題文献を読み込み、それぞれの研究能力の向上を目指しています。

### \*草稿検討会

…各人が提出する論文について、意見を出し合い、学会誌投稿へ向けて切磋琢磨しています。

## ■構成メンバーと自己紹介

現在のメンバーは3人。種村光太郎、竹村文子、山口和紀です。ともに、先端研3回生(D1に相当)です。

種村:大学における「聴覚障害者」の存在に着目した研究をしています。とくに、「日本手話」を用いない聴覚障害者が、自身のことを「障害者」といったり「文化的少数者」であると言っていることの間にある、葛藤を考えようとしています。また、補助的に各地域での要約筆記や、手話通訳のシステムがどのように出来上がってきたのかについても調べています。

山口:障害者運動と高等教育の接点を研究しています。予備論文のテーマは、「障害者だけの高等教育機関の設置」でした。これは障害者だけの大学(正確には短大)を作ろうとする動きと、そのカウンター運動に焦点を当てたものです。

竹村:知的障害者の高校進学にフォーカスして、障害者と健常者を「分けない教育」について考えていこうとしています。特別支援教育を受ける子どもたちが増える中で、「分ける」ことを前提とした学校教育を根底から考えたいという課題をもっています。